空　穂（うつぼ）

市指定
所在地：大渕

空穂（うつぼ）とは矢を入れる容器のことで、長期間の旅や狩猟に際し、湿気や乾燥によって矢が狂うのを防ぐために使用した。

当空穂は竹籠を猪の毛皮で覆った、逆頓空穂（さかつらうつぼ）と呼ばれるものである。室町時代頃（15～16世紀）の製作と見られ、残っていること事態が非常に珍しいとされる。

長さ32㎝、幅13㎝。